

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立郷州小学校

1 はじめに

本校では、外国語（英語）活動の時間を心待ちにしている児童が多い。2学期末に行った実態調査によると、「外国語（英語）活動を楽しみにしているか」という問いに対して、全校児童の約90%が「そう思う」または「大体そう思う」と回答している。保護者への調査においても、外国語（英語）活動へ寄せる期待は大きい。そのような思いを受けて、通常外国語（英語）活動の授業はもちろんのこと、それ以外の日常の場面においても、ALTの協力も得ながら、充実した外国語（英語）活動の実践を心がけたいと考える。

2 具体的な実践内容

（1）特例校としての取組

<低学年>

2年生の「どんな食べ物が好き？」では、自分の好きな食べ物だけでなく、家族の好きな食べ物を英語で紹介する活動を行った。いずれの学年においても、友達とコミュニケーションを図る活動を十分に行い、生活科の「自分と人とのかかわり」という観点において、お互いのことをよく理解することができた。

<中学年>

3年生の「乗り物に乗って出かけよう」では、総合的な学習の時間の学年テーマと関連して、守谷市内の施設や建物について、英語で友達に伝え合う活動を行った。意欲的に活動することができた。

（2）小中一貫教育の視点を意識した取組

<高学年>

6年生において、中学校での「書くこと」へのギャップを考慮して、年度当初からフォニクスの指導を取り入れている。文字と音を結びつける活動に、最初は戸惑いが見られたが、活動を繰り返すにつれて、そういったこともなく楽しく活動に取り組むことができた。また、ほとんどの児童が、母音を中心とした基礎的なフォニクスのきまりを理解することができた。

3 学校独自のアプローチ

（1）世界のあいさつ

毎月1つずつ言語を取り上げ、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「どういたしまして」などの言い方を、全学級で掲示している。また、定期的に朝の会・帰りの会で各言語のあいさつをしたり、連絡帳提出の際に、「ありがとう」「どういたしまして」を各言語で言ったりするなどして、さまざまな言語に親しみを持てるようにしている。

（2）校内掲示物の充実

校内各所に、国際理解に対する興味・関心を喚起するための掲示物を掲示している。例えば、多くの児童が通る職員室や英語ルームの廊下には、世界地図と国旗、首都名、人口、面積などをクイズ形式で掲示したり、世界各国の有名な建造物等を掲示したりしている。

（3）ワールドキャラバン

今年度も昨年度に引き続き、国際理解に対する興味・関心を喚起するために、高学年の児童を対象に「ワールドキャラバン」（国際交流協会主催）に参加した。当日は、シリア人の方が講師として来校し、シリアの食べ物や遊び、小学生の様子などについて、日本の文化と比較しながら、分かりやすく説明してくれた。楽しみながら、異文化への興味・関心を高めることができた。

4 成果と課題

英語で何かを伝える活動を通して、児童同士が十分にコミュニケーションを図ることができた。低学年・中学年においては、生活科と総合的な学習の時間と関連した活動を取り入れことで、児童の英語活動への意欲の高まりもみられた。また、今年度もワールドキャラバンへの参加は、児童にとって国際理解への意欲を喚起するよい機会となった。

今後は、今年度より高学年で実施しているフォニクス指導などについて、校内研修を充実させるなど、教員の指導力向上に取り組みたい。また、児童がより必然的な形で英語を使ってコミュニケーションを図ることができるように、授業展開や計画を工夫したいと考える。生活科と総合的な学習の時間との関連についても、更なる深まりをもたせられるよう指導内容を工夫したい。